

## はじめに

鳥取県衛生環境研究所は「危機管理対応」、「環境の保全・再生と活用に資する調査研究の実施」、「住民・NPOの環境学習・環境活動の支援」及び「試験検査の信頼性確保と精度の向上」をミッション（使命）に掲げ、県民の安全と豊かな環境の確保に向けて業務に取り組んでいます。

また専門性の向上と業務の効率化を図るため所内体制を見直し、令和7年4月より従来の4室1担当から、「衛生室」に感染症担当及び食品理化学担当を、「環境室」に水・大気理化学担当と環境研究・教育担当を置き、総務担当を加えた2室1担当としました。

危機管理対応としては、新たなパンデミックに備えた「衛生環境研究所健康危機対処計画（感染症）」を令和6年7月に策定し、要員の養成や資機材の確保を進めています。また、令和7年4月からは従来の感染症サーベイランスに急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスを追加し、定点医療機関からの情報をもとに県内の感染状況をいち早く把握すると共に地域住民や医療機関などへ提供しています。

原子力関係では、令和7年1月に島根原子力発電所2号機が営業運転を再開しており、本県は原子力施設隣接県であることから、万が一に備え、緊張感をもって空間放射線量率等の平常時モニタリングを実施し、その結果を地域住民に向け提供しています。また緊急時モニタリング実施要領（島根原発対応）及び県モニタリング本部の各チームの対応マニュアルを改訂・強化することでその実効性を高め、あらゆる場面に対応できるよう訓練を進めています。

更に試験検査の信頼性確保と品質管理については、食品衛生・医薬品・感染症の3分野の検査で法に基づく業務管理（GLP: Good Laboratory Practice）を運用するとともに、平成18年から4項目の試験について国際規格ISO/IEC 17025に基づく試験所認定を受けて維持・運用しています。また、他の試験検査や測定についてもこれらの考え方や品質管理方法等を取り入れ、標準作業書を整備するなど信頼性の高い試験検査の実施に努めるとともに、県内の検査機関とも連携し、検査技術の向上や精度管理の知識普及に努めています。

一方、調査研究では、廃棄物処理や土壌汚染現場での調査などにおける迅速試験法の開発や、県内の代表的な湖沼・汽水湖である湖山池・東郷池の海水遡上による流動や水質形成過程の解明、更に両湖で衰退した水生生物の再生のほか、気候変動による水資源への影響調査、VOC由来のオキシダント発生リスクの調査、劇症型溶血性レンサ球菌感染症の疫学調査、食中毒や残留農薬試験法の改良といった課題に取り組んでいます。

また、環境学習の面では、来所された子供から大人まで地域の環境・衛生分野に興味を持てるよう施設内の展示のリニューアルを進めています。当所主催の夏休み親子実験教室や施設見学に訪れた県民の満足度を増やし、更に大勢の方々に参加いただけることを心から願うところです。

本年報は、令和6年度に当研究所が実施した試験検査、調査研究業務等を取りまとめたものです。関係各位の御協力に感謝いたしますとともに、御一読いただき、忌憚のない御意見をいただければ幸いです。

今後とも、県民の方々のニーズを的確に把握し、常に前向きに課題に取り組み、使命に応えられる衛生環境研究所及び原子力環境センターとなるよう、一層努力していきたいと考えておりますので、御指導、御協力をよろしくお願いします。

令和8年3月

鳥取県衛生環境研究所  
所長 池山 恒平